

観光地における世代別来街者の行動に関する考察*

Consideration of travel behavior by each generation in tourist areas*

三浦春菜**・秋山哲男***・米原亮三****・杉町大輔*****

By Haruna MIURA**・Tetsuo AKIYAMA***・Ryouzou YONEHARA****・Daisuke SUGIMACHI*****

1. はじめに

高齢者の増加に伴い、居住地だけでなく、観光地においても訪れる人々のニーズが変化する可能性がある。そのため、世代によってニーズがどのように異なるかを明らかにすることは、これからの観光地を整備していく上で重要となると考えられる。

現在まで、観光地を回遊する観光客全体の行動を中心に研究が行われてきた。近年、移動困難者の観光に関する調査も行なわれ始め、草薙ら¹⁾の調査では、詳細な障害者の観光に関する検証を行っているが、障害者や高齢者に焦点を当てた観光行動に関する研究はまだ少ない。また、高齢者の外出行動についての研究において、観光行動についてはあまりとらえられていない。

そこで本調査は、65歳以上と10～29歳、30～49歳、50～64歳の年齢層で比較を行い、観光地における観光目的や参考にする情報媒体、外出の日程などについて、世代ごとに違いを把握することにより、特に移動や情報収集等に対して負担が大きいと考えられる高齢者を中心とした、観光行動の概観を示すことを目的とする。

(1) 調査地

調査対象地は東京都内、及び周辺の観光地とされる3地区を選定した。

浅草は都内の代表的な観光地であり、川越は都心に近い、歴史的な街並みが残されている地区、神楽坂も古からの路地の残る観光地である。

*キーワード：観光・余暇

** 学生員、都市科学修、首都大学東京大学院都市科学研究科（東京都八王子市南大沢1-1、

TEL042-677-2360、FAX042-677-2352）

*** 正員、工博、首都大学東京大学院都市環境科学研究科（東京都八王子市南大沢1-1、

TEL042-677-2360、FAX042-677-2352）

**** 東京都産業労働局観光部 参事

（東京都新宿区西新宿2丁目8番地1号

TEL03-5321-1111、FAX03-5388-1463）

***** 学生員、修士課程、首都大学東京大学院都市科学研究科（東京都八王子市南大沢1-1、

TEL042-677-2360、FAX042-677-2352）



図1 調査地（浅草・川越・神楽坂）

(2) 調査方法

アンケート調査（対象地域を訪れている人に直接配布、郵送回収）を行った。

表1 各地域におけるアンケート票回収数

調査対象地域	調査日	配布数	回収数	回収率
浅草	2005年11月23日(祝)	355票	95票	26.8%
川越	2005年11月23日(祝)	864票	277票	32.1%
神楽坂	2005年11月19日(土)	431票	131票	30.4%

(3) 調査項目

属性（性別、年齢、職業、住所）

A 観光全般について

（旅行頻度、同行者、情報媒体、目的）

B 各地域への外出について

（目的地への頻度、目的、同行者、事前情報、日程、交通手段）

C 各地域を訪れての感想

D 各地域と他の観光地の比較

(4) 回答者の年齢構成

3地区における回答者の年齢構成の実数値と各地域の割合を示す。

表2 各地域における年齢構成(%以外の単位は人)

	10~29歳	30~49歳	50~64歳	65歳以上	合計 実数	割合
	浅草	18	29	29	18	94
川越	22	70	123	59	274	55.4%
神楽坂	16	44	48	19	127	25.7%
合計	56	143	200	96	495	100.0%
%	11.3%	28.9%	40.4%	19.4%	100.0%	

2. 調査結果

(1) 同行者

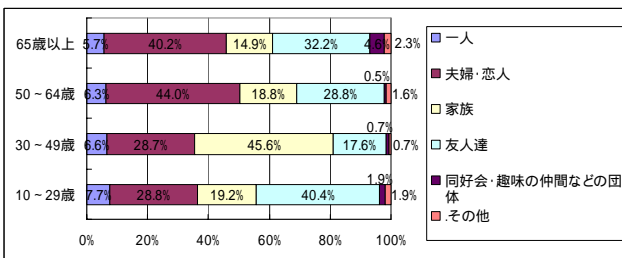


図3 世代別同行者

「普段、旅行・観光に出かける際に、同行される方はどういった方が多いですか」という問いに対し、図3より、65歳以上の高齢者は、家族で観光地へ来ている割合よりも夫婦や友達同士で来訪している割合が高い。

(2) 観光目的

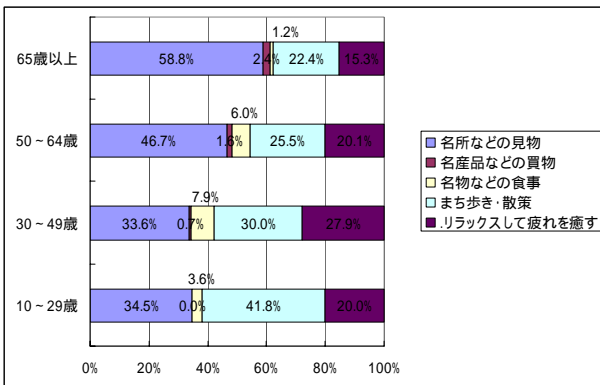


図4 世代別観光目的

「普段はどういったことを目的に観光に出かけますか」という問いに対し、図4より、おおむね年齢が高くなるにつれ、名所見物が増え、まち歩き・散策の割合が減る傾向がある。

(3) 情報媒体

「旅行・観光を行うにあたり、どのような情報媒体を参考にしていますか」という問いに対し、図5より、65歳以上の高齢者は、旅行会社のパンフレットによる情報

収集の割合が高い。10~29歳、30~49歳はインターネットでの情報収集の割合が高い。

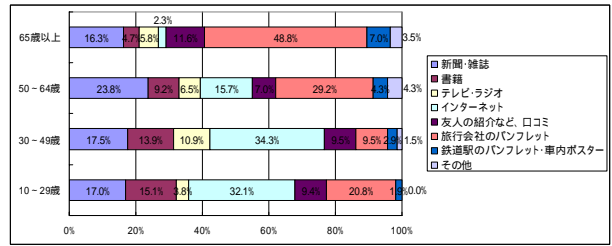


図5 世代別情報媒体

(4) 事前情報

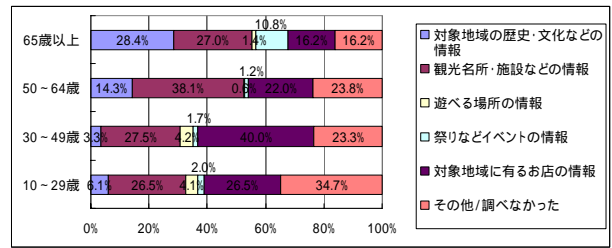


図6 世代別事前情報

「調査地を訪れたきっかけはなんですか」という問いに対して、図6より、65歳以上の高齢者は事前に得た対象地域の歴史・文化に関する情報により、外出を決定している割合が、他の年代に比べ高い。

(5) 外出日程

a) 世代別の外出日程

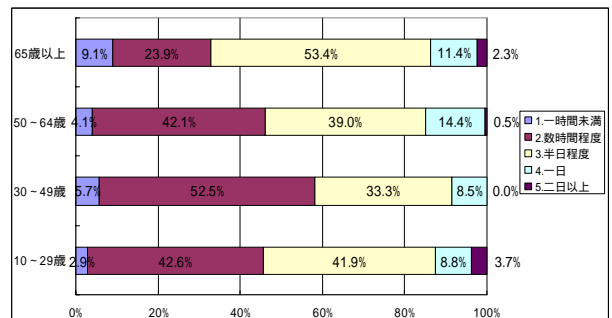


図7 世代別調査地での滞在時間

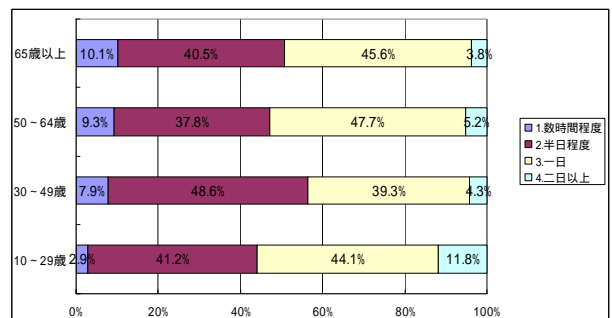


図8 世代別外出全体の時間

「調査地へ行くことを含め、今回の外出の日程を教

えてください」という問いに対して、図7, 8より、外出全体の時間は各年代ともそれほど代わりがないが、調査地での滞在時間は65歳以上では半日程度の割合が高い。

b) 調査地別の外出日程

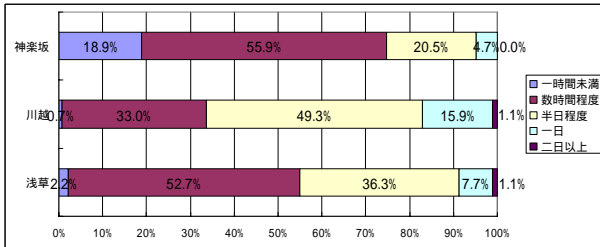


図9 地域別調査地での滞在時間

調査地ごとで比較すると、図9より、神楽坂では1時間未満の滞在の割合が他の地域より高く、逆に川越では一日かけて滞在する割合が他の地域より高くなっている。

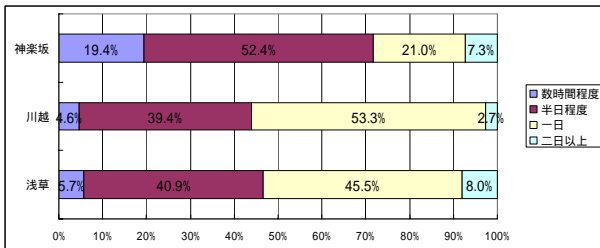


図10 地域別外出全体の時間

調査地ごとの外出全体の時間について、図10より、神楽坂については数時間程度の割合が他の地域に比べ、高い。

(6) 他地域への外出

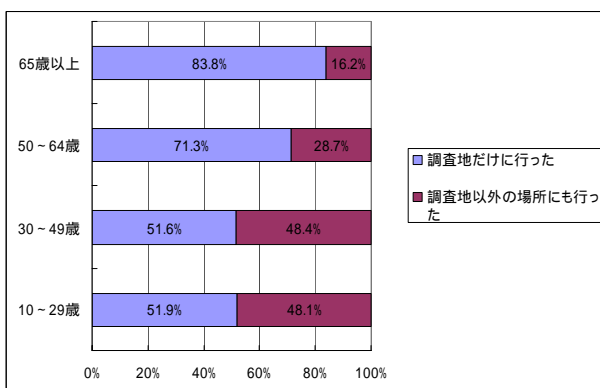


図11 世代別他地域への外出

「今回の外出全体で調査地のほかにどこかへ行きましたか」という問いに対して、図11より、高齢になるほど、外出する場所は調査を行った地域だけ訪れる割合が高くなっている。

(7) 交通手段

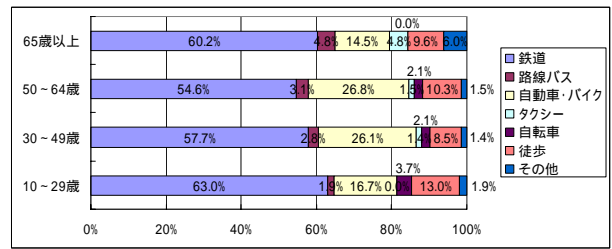


図12 世代別交通手段

調査地を訪れる際に利用した交通手段について最後に使ったものを回答していただいた。図12より、全ての年代で鉄道利用が半数以上を占めているが、65歳以上の高齢者は路線バス、タクシーの利用も見られる。

3. 考察

高齢者の観光の目的として、名所見物の割合が年齢と共に増加することについては、まちを長距離歩いて散策するよりは、名所を集中的に見るほうがよいと考えられているのではないか。これは、利用交通手段でも高齢者はタクシーの利用が見られ、観光地での移動について、今後詳細に検討する必要がある。

高齢者の利用している情報媒体については、インターネットよりは手軽に様々な観光地を比較可能な、旅行会社のパンフレットで行き先を探している。ホームページでの情報提供も重要ではあるが、パンフレットは高齢者にとって重要な存在であることがわかった。

高齢者の外出の時間については、1つの地域だけを、半日程度かけて見るという割合が高く、特に他地域への外出については年齢が高くなるに連れて調査地以外の場所に行く割合が減っている。これは、若い世代は多くの観光地に行くことができるニーズが高いのに対し、年齢が高くなるにつれて、ひとつの地域をじっくりみる仕掛けが必要なのではないかと考えられる。

また、地域別の外出時間については、神楽坂は滞在時間とその日の外出時間が共に短く、近隣からの来街者が多いと考えられる。

4. 今後の課題

観光地において、もう観光を行っている人々についてのみの調査であったため、行きたくても行けない人々についての課題を今後捉えたい。

高齢者だけでなく広く移動困難者についての観光行動について調査を進めたい。

参考文献

1) 草薙威一郎、勝矢光信：当事者からみたバリアフリー旅行の実証的考察 旅行環境のバリアフリー化と旅行介助の軽減に関する研究，第11回 観光に関する学術研究論文，pp.1 -15，2005。